

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 8 回相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会 橋本駅周辺地区小委員会		
事務局 (担当課)	都市建設局まちづくり計画部リニア駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7047 (直通)		
開催日時	平成 2 8 年 1 月 6 日 (水) 1 9 時 0 0 分～2 1 時 0 0 分		
開催場所	ソレイユさがみ セミナールーム 1		
出席者	委員等	1 7 名 (別紙のとおり)	
	事務局	4 名 (広域交流拠点推進担当部長、リニア駅周辺まちづくり課長、 リニア駅周辺まちづくり課担当課長ほか)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	3 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 議事 (1) 第 7 回橋本小委員会における主な意見について (2) 橋本駅周辺地区 広域交流拠点整備計画 (素案) について 3 その他		

審 議 経 過

1 委員長あいさつ

2 議事

事務局から資料説明後、質疑応答を行った。主な内容は次のとおり。

(□は委員長、■は副委員長、○は委員、●は事務局の発言)

□ 本日は橋本小委員会として最後の委員会である。

第1章から第4章の構成について、橋本地区と相模原地区の両地区をあわせた全体版が最終成果であると理解するが、第1章では両地区の位置づけや広域交通ネットワークなどが整理されると考えてよいか。

● 第1章については、全体の検討委員会において示す予定である。

□ 両地区の連携や発展性を描くことが重要であるので、最初に広域交通ネットワークや前提条件などを整理しておくべきである。

○ リニアの出入口が1箇所となっているが、防災面などの観点からも複数の出入口を設置すべきではないか。また、バスの台数の乗降施設が2台増えることになっているが、この台数で交通結節点としてのハブ機能が確保できるのか。

● リニアの出入口については、資料に示しているのは乗換え動線との出入口であり、そのほかの出入口についてはJR東海と今後調整していきたい。

□ リニアの改札から地上に出る動線の整備主体はどこなのか。

○ 駅全体はJR東海がつくるため、駅に関係する基本的な部分はJR東海が整備することになると思う。現段階では改札は1箇所を想定しているが、地下2階の改札から地上に出る通路が1箇所では少ないと思われる。

□ 地上への出入口は安全面からも複数あるほうがよいが、地上の広場や周辺の建物などの設計とも関係することなので、今後検討しなければならないことである。出入口が1箇所であると決まったわけではないことを示さなければならない。バスの台数について、路線バスの機能として本質的に変わる部分はないのか。

● 資料には参考台数として確保すべき台数を示している。今後、交通広場の設計を進めていく中で、交通事業者との協議により定めていきたい。

○ 自転車ネットワークの整備方針について、自転車道の終わりほどのような構造になるのか。自転車道は車道側での整備を考えているのか。

また、核の機能について、南口の暮らし・文化の「文化」は何を指すのか。文化とは、産業、芸術、商業などで形成されるものである。芸術に携わる人は主に北側地区にいたので、南口のアートラボはしもとだけに留めてしまっているのか。芸術は建物の中だけではなく、まち全体として考えるべきものである。

また、広域交流ゾーンに商業施設が立地すると思うが、駅前の大規模施設にまち

の景観が損なわれるのではないか。

- 自転車道の整備については、交差点などにおいて円滑な走行空間が確保できるよう処理を行いたい。

文化については、大山町地区の創造・文化の核との機能連携として、現在中心となっているアートラボはしもととの連携を図り、その相乗効果を周辺地域へ波及していきたいという考えである。

- 道路の具体的な断面構成はいつごろ検討するのか。
- 警察などの関係機関との協議を経て決まるものであると考えている。
- アートラボはしもとを中心に周辺地域への波及効果を図るとのことだが、現状としてアートラボはしもとは芸術の中心ではない。実際に芸術に携わる地域住民や若者などの意見を聴きながら文化という要素を検討して欲しい。
- 全体計画の中で既存の核についての記述がない。南口の新たな核を中心に資料をまとめているが、北側地区などの周辺地域についても言及した方がいいのかもしれない。
- 都市の将来イメージについて、これまでの交通広場の検討図面とは異なるイメージの絵である。

緑と憩いのゾーンについて、ただの緑地にするのではなく、ジョギングコースなどのスポーツ施設や彫刻やモニュメントを置くアートスペースにするなど、緑をいかした空間という要素を入れてはどうか。

- 交通広場は現在3案を検討中であり、あくまでもイメージとして1案を絵にしておき、今後の検討において整理する。緑と憩いのゾーンも緑地だけではない活用方を今後検討していきたい。

- 緑と憩いのゾーンの幅員はどのくらいか。

- 約50mである。

- リニアの上部空間なので様々な制約はあるが、活用方法は今後議論すべきである。複合都市機能ゾーンと一体的な活用も考えられる。

- リニア利用者の駐車場施設はどうするのか。また、地区間交流軸について、現状の南口は通過交通による渋滞が課題である中、この道路計画では通過交通が駅前に入るのではないか。

一般車乗降場として示されている位置では誰もそこを利用せず、駅に近い場所で路肩駐車による送迎が想定され、さらなる交通混雑が発生すると思われる。

地区間交流軸はどういった機能を持つ道路なのか。

- リニア利用者の乗降場については、自動車駐車施設等として民間開発による附置義務駐車場や既存の公共、民間駐車場を活用することにより確保する考えを示している。地区間交流軸は、緑区役所付近からのネットワークの中心として考えている。

- 通過交通への対策はどうか。地区間交流軸の幅員構成はどうなっているのか。

- 地区間交流軸は、まちづくりにおける地区を結ぶ道路として、歩行者動線を確保することが重要であると考えている。歩行者や自転車が安全で快適に走行できる空間が確保できる道路構成を考えている。
- 通過交通などの議論は広域図がないとできないことである。国道 16 号方面や多摩方面からの交通ネットワークがわかるような図面が必要である。パークアンドライドについて、現在の北口の駐車場も余裕があるという理解でよいか。
- 附置義務駐車場と公共駐車場が整備されており、民間と公共をあわせて余裕がある状況である。
- 鉄道利用による長時間の駐車場利用はリニア利用者であるとのことであったが、橋本駅はインターチェンジが近いということ、リニア駅であることを最大限にいかすという視点を持つべきである。具体的な台数等の数値は今後の検討でよいが、広域交通ターミナルとしての最大メリットであるインターチェンジとの連携をもっと明確に表現するべきである。最終的に橋本駅周辺地区と相模原駅周辺地区をとりまとめた時に、両地区の役割分担や特徴として橋本の交通結節機能が強く打ち出せるのではないか。

また、景観について、リニアの都市的イメージと緑空間の融合とあるが、橋本駅はさがみロボット産業特区の拠点駅ともなるため、都市的イメージの表現の中に、リニアだけではなく、都市的イメージにもなるロボットについても触れていただきたい。
- 橋本駅は交通結節点であり、相模原は地盤が強く、防災まちづくりの観点からもスマートコミュニティの形成に資するポテンシャルが高い。BCP（事業継続計画）対策の観点も兼ね備えた地域であることを記載してよいのでは。本市に進出する企業はBCP対策として進出しているという話もある。

また、広域交通ネットワークを活用した国際化や本社機能を持つ企業の集積は十分可能であると思うので、積極的な企業誘致をお願いしたい。

観光については、横浜や箱根などの県内のインバウンドを市内に取り込む仕組みも検討していただきたい。圏央道やリニアを活用することにより観光拠点となり得ることも記載してほしい。

京王線の駅移設については、実現できるよう検討を進めてほしい。
- 観光については、広域の話とも関連することなのであわせて記載してはどうか。今後の課題はまとめて記載するのか。
- 今後の課題については第 4 章において整理したい。企業誘致などの方策は経済部局と調整して記載できるか検討したい。
- 企業誘致はものづくり産業交流ゾーンを実現させるためには必要な方策である。東京都の 2040 年を見据えたグランドデザインでは、橋本・相模原地域を視野に入れた多摩地域などのビジョンが描かれているようである。広域の周辺地域を取り込

んだ観光や産業の将来像も表現できるといい。

- 広域交流軸はリニアの線形と近接しているが、道路構造としては地上で国道 16 号と平面交差するという理解でよいか。

リニア駅函体の地下 1 階は地元で活用していただきたいと思っている。これまでの委員会では活用方策が検討されていたと思うが、本資料に載せていないのは検討中ということか。

乗換え通路の拡幅とあるのはリニア利用者の増加による拡幅の必要性と理解するが、幅員の算出には業務機能の集積による就業者など、開発による増加分は考慮しているのか。

京王線の駅移設について、鉄道間の乗り換え利便性を向上させるという考えのほか、まちづくりとしての観点から、移設の可否を検討してもいいのではないか。

- 広域連携軸については、今後の警察協議などを経て決めていきたい。今後も JR 東海と情報共有しながら進めていきたいと考えている。

リニア駅地下 1 階の活用については、諸条件が整理しきれていない段階なので現段階では記載していないが、今後も個別協議をお願いしたい。

乗換え通路の幅員については、将来の開発需要を見込んで概ねの幅員を示している。

京王線移設については、現状のまちづくりとしての課題解決も考慮した視点での表現を強調したい。

- 乗換え動線の幅員など、推計した数値は参考資料としてまとめるのか。

- 資料編としてバックデータは残しておく。

- 多摩地域を視野に入れた産業ビジョンは記載してもいいのかもしれない。

都市の将来イメージはまちづくりとしての最終形を示したものなのか。段階的に整備していくことなので、どの時点のイメージかを示してはどうか。新幹線と経済の関係について、新幹線駅にある大学は、特に新幹線開業による影響は受けないものである。ただ、大学として交通費補助などの対策を講じていると新幹線利用者が増える。リニアと新幹線は単純には比較できないが、親元からリニアで通学するという新しいスタイルを市が提案できるといいかもしれない。

- 現段階において、決まっていないことが決まったことのように誤解される表現は避けるべきである。

歩行者ネットワークについて、回遊機能を向上させることは極めて重要である。リニア上部の緑地空間の位置づけが弱いので、歩行者ネットワークに組み込んで位置づけてはどうか。また、交通ネットワーク計画の歩行者ネットワーク図と駅前空間の回遊性機能の向上における歩行者ネットワーク図の整合が取れていないため、再整理してほしい。

一般車乗降場について、現時点で示されている位置では、地区間交流軸の駅に近

い部分での乗降だけではなく、交差点部においても同様に発生する可能性がある。今後検討を進めていく中で、一般車乗降場を別の位置で設置する案も出てくると思うので、表現の仕方を工夫した方がよい。

□ 交通広場も京王線の駅移設も決まっていなかった中の一般車乗降場の表現は違和感がある。現実的なことを考えると、現段階では明確な位置は言えないのかもしれない。どこから駅前に来るのかということ意識して配置を考えるべきである。

○ 京王線の駅移設について技術的検討を重ねてきたが、最終的にまちづくりにおける鉄道駅の位置づけや役割が重要になる。移設については費用負担の話が重要であるので引き続き協議をお願いしたい。

橋本駅の開発は、橋本・相模原地区における効果だけではなく、周辺地域にも波及すると考えているので、駅移設の有無にかかわらず鉄道駅としての役割を考えていきたい。

○ 道路計画について、現在の緑区役所前の道路から駅前に向けて2車線に狭まってしまうと混雑するのではないかという印象である。橋本駅のポテンシャルが高まれば一般車の流入も増加すると思うので、その中で路線バスの速達性を確保することが重要である。地下利用も含めて道路機能を検討し、魅力ある駅前にしてほしい。

□ 本来ならば具体的な交通広場の図面を描いて3案を検討するべきであるが、京王線の駅移設の話があるのでやむを得ない部分もある。橋本小委員会の結論としては、積み残しが出てしまった印象もあるが、選択肢は狭まってきている。整備主体、費用負担の議論を詰めていただき、さらに詳細な絵を描いてほしい。今後のスケジュールはどうなっているのか。

● 橋本小委員会は今回で最後である。今後、第3・4回の検討委員会を行い、答申、パブリックコメントを経て、整備計画の策定という流れである。

□ 本日の資料について、改めてご意見などがあれば13日までに事務局へ直接連絡していただきたい。本日のご意見等を踏まえ、1月29日の第3回検討委員会までに再整理し、その委員会では両地区が1冊となった冊子を提示させていただく。橋本駅周辺としてはある程度選択肢を絞って整理できた印象であるが、今後の課題の整理と両地区の連携方策を詰めなければと感じている。

以 上

第 8 回 相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会
橋本駅周辺地区小委員会 委員名簿

No.	区 分	氏名 役職等	出欠
1	学識 経験者	◎岸井 隆幸 日本大学理工学部土木工学科教授	出席
2		○飯島 泰裕 青山学院大学社会情報学部社会情報学科教授	出席
3		○屋井 鉄雄 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	出席
4	市住民	五十嵐 淳 公募市民	出席
5		中山 晃子 公募市民	出席
6		大用 尚 橋本駅周辺まちづくり推進会議構成員	出席
7		草野 寛 橋本駅周辺まちづくり推進会議構成員	出席
8	関係団体	原 正弘 橋本駅周辺まちづくり推進会議会長	出席
9		阿部 健 相模原市観光協会専務理事	出席
10		山崎 和正 相模原商工会議所理事兼事務局長	出席
11		田所 昌訓 相模原市自治会連合会会長	出席
12	公共交通 事業者	山口 拓 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長	出席
13		二村 亨 東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部企画推進部 担当部長	出席
14		高山 恒明 京王電鉄株式会社鉄道事業本部計画管理部長	出席
15		三木 健明 神奈川中央交通株式会社運輸計画部長	出席
16	関係行政	寶珠山 正和 神奈川県県土整備局都市部交通企画課長	出席
17	機関	牧野 末次 神奈川県相模原北警察署交通課長	出席

◎：委員長 ○：副委員長